

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (1-8)

団体名	特定非営利活動法人 京口スコラ	代表者名	(職名) (氏名) 理事長 須田 泰司
事業名	不登校・ひきこもり経験者等、社会に出るのに不安を抱える青少年に対する総合的な相談支援および居場所づくり		

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」 「毎〇曜日」等 で記入	場所	参加者 一般(ス タッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
毎金曜日 4/7 ~ 2/16	ネスト玉響舎	198 (48)	居場所および共同活動事業(41回) 生活作業や共同作業、談話、等を通じたコミュニケーション 体づくりや脳トレ、創作活動 講師を招いてのクラフト講座(月1回 6~12月で7回開催)
月1回 (第3土曜日) 4/15 ~ 2/17	京口カウンセ リングセンター 4F	61 (11)	親の会(11回) 親同士の交流、相談、助言など。

< 効果と成果 >

家からなかなか出られなかったり、日常的に通える場所や人間関係に乏しかったりする、20代後半~40台間での青年に対して、各自のペースで安心して通える居場所を提供することができた。週一回の開所で、一回あたり平均して4~5名の利用が年間を通じてあり、時間を経るごとに少しずつ緊張もほぐれ、日常生活や共同作業、季節の行事などを媒介にして多様な形でのコミュニケーションを図ることができた。各個人に対しても、体操や脳トレを行ったり、生活体験、創作活動や、必要に応じて悩み相談などの支援も行い、最初は不安定であった利用者の方たちも、次第に安定して来所できるようになった。また、なかなか家から出られない子どもを抱えた親御さんの利用もあり、少しずつではあるが本人に対する刺激になっているという事例もあった。

親の会は、平均5~6名が参加。様々な年代の子どもを抱えた親御さんたちが相互に、またスタッフを交えて悩みを聞いたり助言し合ったりすることで、親御さん自身の安定、ひいては家庭の安定と子どもの力を引き出すことに寄与できた。

< 今後の展望 >

初年度は、居場所事業の安定した運営と、来所することと人間関係に慣れること、を目標に活動を行った。今後もそれが重要であることは変わらないものの、ある程度安定してくると、その先には良い意味での「飽き」が来ると思われるので、各自の興味に基づいた能動的な活動を増やしていく必要があると思われる。個人活動、共同活動を通して、少しずつ自信につなげていきたい。

一年間の活動を通して見えてきたこととして、こういった居場所が重要であり需要もあることはもちろんだが、それだけで先のビジョンが描けるとは限らない、ということがある。(4)の前半で述べたことと重なるが、その人個人に合わせた一貫したサポートがあってこそ確実な成果を上げることができる。家庭に対する支援や生活支援、環境調整が必要な場合もあり、今後、その人に応じた相補的な支援を行える機関とどうつながるか、ということが課題になってくると予想される。また、問題の性質上、あまり近隣だと逆に来づらいという場合も多いため、各利用者に対応したそれぞれの地域資源をどう活用するか、ということも課題である。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	396,000
利用料	84,000
自己資金	737
合計	480,737

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	人件費	281,000	273,000
	地代家賃	110,000	90,000
	消耗品費	47,437	28,000
	その他 (謝金等)	31,000	0
	小 計	469,437	391,000
間接経費 (一般管理費)		11,300	5,000
合 計		480,737	396,000